



ようやく、古稀超え
まで生きることができたが、重篤な持病を抱える自分、平均寿命までなんとかがんばりたい。なかなか機会が無いことからこの場を借りて自伝のようなものをお許し願いたい。

生い立ちと会社時代

昭和21年に生まれる。物心がついたときには父は他界、身障者の母は終戦直後、大変な苦勞で女2人、男1人の子供たちを彦根の母子住宅で極貧の中で育て早逝した。姉たちは中卒で我慢し弟を高校に行かせてくれた。自分は父を知らず、子供たちに父親像というものを見せず戸惑ったものだ。

昭和39年高校を卒業、幸い滋賀県一の企業で合成繊維の製造現場の後、最初の電算機要員として製造/事務のコンピュータ化の黎明期に関った。

ソフト開発専用の会社へ移り、製鉄、自動車、軽金属、複写機工場の自動化システムや陸上自衛隊人員管理、血液分注ソフトの開発などを経験。

現役最後の10年は東京を拠点に放射能管理システムの開発・営業を担当。全国の核施設、原発、大学病院、核融合実験施設を飛び回った。東海村の放射能被曝の人身事故現場を数日の差で免れたり北京の原子炉視察などスリルあふれる体験も。

レイ大の休校騒動

現役引退後はネットで知ったレイ大32期陶芸学科に応募。栗東市枠の中から抽選で入学できた。

入学の年2009年10月30日午後の必修講座の始めに県から重大な発表があった。「県の財政事情から、レイ大の学生募集を来年度から中止する」というもの。忘れもしない32期陶芸クラスの学生生活ホームページに動画として記録されている。

それは入学したての我々32期生は「来年の今頃は後輩不在の2年生、そして、レイ大最期の卒業生となる」ことを意味する。ただちに学科長、直近OB、有志たちが発起、休校阻止運動が開始した。

翌年5月にレイ大継続が決定した。1期も欠かすことなく、今年40期生を迎えることができたのはこの運動をきっかけに誕生したサポート隊創設者たちの並々ならぬ努力・献身の賜物である。

卒業後のサポート隊、同窓会

第2期サポート隊で広報情報部会長を任せられ、「レイカディア大学だより」のカラー化、パソコン教室の創設、ホームページ立ち上げなど、レイ大に顔を出すのは在校時よりも多くなったほど。

サポート隊を任期3年で終わり、同窓会では同窓会ホームページを開設、現在に至っている。

趣味を楽しむ (根っからの好奇心人)

入社時の初任給を頭金に月賦で買った一眼レフカメラで写真に没頭。過去45台ものカメラ買い替えとクラシックカメラコレクションは30台以上。現役デジタルカメラも10台以上所有のカメキチ。

歴史・城好き。ふるさと彦根の影響で国内の城は殆ど制覇。城郭の写真から城名を当てられる。

最近では家内に師事し、簡単な切り絵も楽しむ。

TVドラマ大好き。月に5回は映画館通い。

レイ大OBの陶芸同好会に参加、陶芸を生涯の趣味の一つとして変な作品づくりを楽しんでいる。

インターネット普及の初期、まだ大企業でもホームページを持っていないころから個人のホームページを立てて日常の徒然草を綴っている。1996年から21年分のサーバー上の更新数は約5千件、写真は約12万点に上る。→ <http://kyouno.com/>

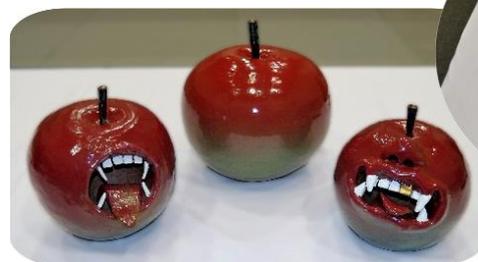
これから

我々はバブルも大不況も経験、東京オリンピックも2回、大阪万博もひょっとしたら2回、三代の邦暦・天皇の元に、いい時代に生きたと思う。しかしこのあと、子や孫に大きな負債を遺して・・・。

混沌としたこの危うい世界がどうなっていくのかそして、AIやips細胞が人類にどのように影響していくかを見届けたく、死ぬまで生きたい。



切り絵



陶芸

